

コレクション紹介
大島良美 昆虫コレクション
清 邦彦

静岡県の自然を代表するものは富士山、南アルプス、そして駿河湾である。富士山を特徴づけるものは蝶から見ると山麓の草原地帯に分布する草原性チョウ類、南アルプスではベニヒカゲをはじめとする高山チョウと言えよう。これらの蝶の起源は大陸の乾燥、寒冷な地域であるモンゴルの草原やロシアシベリア地方にあり、静岡県の蝶の研究をするにあたってはこれらの地域の調査、標本が欠かせない。大島良美コレクションはそのモンゴルとその周辺地域を中心とした 13000 点、標本箱 158 箱の蝶類の標本である。

大島良美氏は、著書「蝶と暮らして 40 年」(講談社 1987 年)を参考にすると、昭和 8 年(1933 年)神奈川県平塚市生まれ、戦時中に長野県の諏訪地方に移り、やがて諏訪昆虫同好会の一員として浜柴一氏らとともに周辺地域の蝶類調査にはげられた。その後上京して、当時の蝶類研究の大家の一人である林慶氏に師事された。ウラナミアカシジミの異常型が見つかったことから同じ雑木林からまた見つかるかと 500 頭の幼虫を飼育したエピソードを持つなど、蝶の飼育が得意であり、日本幼虫図鑑(北隆館)、原色日本蝶類幼虫大図鑑(保育社)の作成時には幼虫の飼育や撮影に当たられた。職業は銀行員。

大島コレクションのうち日本産は 4200 点。北海道から沖縄までだが関東とその周辺地域が多い。中でも大島氏が住まわれていた中野区から西武鉄道で通いやすい、埼玉県と東京都にまたがる狭山丘陵の 1980 年代の標本が多いのが特徴である。オオムラサキ、ミスジチョウ、ウラゴマダラシジミ、アカシジミ、オオミドリシジミ、クロシジミといった里山らしい環境を示す標本が見られる。都心の港区六本木のキマダラセセリやゴマダラチョ



モンゴルのシジミチョウ類



モンゴルのベニヒカゲ類

ウ、江東区夢の島のギンイチモンジセセリの記録も興味深い。

海外調査はキルギスからオーストラリアにまで及び、中でもモンゴルには毎年のように出掛けられた。大島コレクションの中心は何といってもモンゴル産の 4200 点の標本であり、モンゴルを囲む地域である中国産が 2000 点、キルギス・ロシア合わせて 1300 点である。静岡県南アルプスの高山・亜高山帯に生息するベニヒカゲの仲間が多く、富士山麓の草原性蝶類であるゴマシジミやアサマシジミなども含まれるほか、ヒョウモンチョウ類も多くみられる。